



組織の枠を超えて産学官金連携

つながるネットワーク

比田地域の魅力向上や住民の居場所づくりを目的に令和5年3月に地域の拠点施設である「比田いきいき交流館（以下、交流館）」のリニューアルにあわせ、館内に新たなカフェがオープンします。そのカフェで提供するメニューの開発と広報の実施にあたり、交流館を運営するえーひだカンパニー株式会社を中心に、島根県立情報科学高等学校、安来市、島根銀行安来支店の4者が協働して、令和4年7月、それぞれの得意分野を生かした産学官金連携事業「えーひだプロジェクト（以下、プロジェクト）」が立ち上がりました。今回の新春座談会では、プロジェクトをけん引する関係者3人をお招きして、「プロジェクトの取り組み」や「中山間地域の魅力」などについて語り合っていました。

それぞれの組織の強みを生かして

田中市長（以下、市長） 比田地区・東比田地区（以下、比田地域）は、令和元年に島根県が進める「小さな拠点づくり」のモデル地域となつていきます。その拠点づくりを推進するために、新たな取り組みが始まったみたいですね。

田邊裕子（以下、田邊） 交流館のリニューアルに合わせて、既存の直売所に新しくカフェを併設する予定としています。そこで提供するカフェメニュー開発を行うため、令和4年7月にプロジェクトを立ち上げました。立ち上げ前は、具体的なメニュー開発に向けた動きが弱かったところでした。産学官金で連携して島根銀行が取り組む「安来リブランディングプロジェクト

えーひだカンパニー株式会社

比田地区・東比田地区で、平成29年3月1日に住民有志で設立。住民主体で策定した将来の設計図「比田地域ビジョン」の実現に向け、生活、福祉、観光、産業など多岐にわたる分野で組織的に活動し、活力ある地域づくりに取り組んでいる。

（※）に関わらせていただくことで、カフェメニューに向けた取り組みが進むようになりました。

※安来リブランディングプロジェクト：産学官金が連携して、安来由来の商品開発・マーケティング・販売（販売拡大



情報科学高等学校
吉原 ヒカリ
学（学校）



安来市長
田中 武夫

官 (市役所)

えーひだカンパニー(株)
田邊 裕子

産 (事業者)

島根銀行安来支店
須藤 珠里

金 (銀行)

を行い、新たなブランドイメージを定着させること。

須藤珠里 (以下、須藤) 今の地方銀行は、お金を貸したり預かったりするだけのものではなく、地域に根ざす金融機関として、地域社会の発展に貢献していく役割があります。島根銀行としても昨年度から「安来リブランディングプロジェクト」の一環で情報科学高校や安来市内の事業所と関わりを持たせてもらっています。

吉原ヒカリ (以下、吉原) 高校生の役割は、新しく設立されるカフェのメニュー開発です。高校生の視点からメニューを考えてみて、今の流行を取り入れながら斬新なアイデアを考えることが大切だと思っています。

市長 昨年度も情報科学高校で鹿肉カレーやイエローバスをモチーフにした商品パッケージを開発されましたね。若い感性は、高校生の強みです。今後は、どんなメニューにしていくか、比田米をはじめとする地域にある製品の魅力をどのように発信していくかが大事になってきますね。ぜひ頑張ってください。

比田の魅力を 地域外に発信

市長 交流館のリニューアルに向けて、各組織の具体的な取り組み状況を教えてもらえますか。

須藤 島根銀行では、令和4年度のプロジェクトの取り組みとして、えーひだ市場休業期間中の販売場所の提供と地域外へのPRを行いました。具体的には松江市にある本店ロビーでの出張販売を2回(8月、9月)実施しました。今後は比田地域の製品のほか、地域の魅力がより伝わるような仕掛けを出張販売で行ってきたいと考えています。



▲交通、買い物支援、交流の拠点として、令和5年3月にリニューアルオープンする交流館。



▲交流館の休館中、島根銀行本店ロビーで比田産品の出張販売会が行われました。

田邊 須藤さんをはじめ行員の皆さんの協力により、地域外の人とのつながりができました。お米の注文をいただいたり、比田米のおいしさを知ってもらいきっかけになったりしました。このつながりが



須藤珠里 島根銀行安来支店

令和4年4月、島根銀行に入行。大学生時代には、農山村に滞在し、さまざまな地域づくりのお手伝いをする「地域づくりインターン」に参加。農山村の地域づくりに関心をよせる学生時代を送る。広瀬町東比田在住。

比田の魅力を知ってもらいたい

できたことに本当に感謝です。

須藤 銀行側からお手伝いできることはありませんかと、お願いしている立場ではあったんですが、つながりができたと感じていただけると素直にうれしいです。私も比田出身というのもあるので、とてもうれしく思います。

吉原 交流館でのカフェメニューの開発では、まずは絵コンテにしてイメージを膨らませ、7品を試作しました。どのメニューも甘さ控えめでやさしい味を心がけ、食べやすいものに仕上がりました。その中でも一番好評だったのが、比田産の玄米甘酒を使用した「玄米甘酒チーズケーキ」です。そちらを用意しましたの

若者の発想でサポートします



吉原ヒカリ 情報科学高校

3年生。生活科学部の部長を令和4年9月まで務める。部員9人(1年5人、2年3人、3年1人)を束ねて、交流館で提供するカフェメニューの商品開発などに関わる。広瀬町西比田在住。

で、ぜひ試食してみてください。**市長** とてもおいしいです。甘酒とチーズはともに発酵食品なので、相性がいいですね。試食させていただいた商品はもちろん、今後も地元食材を使った商品開発に期待しています。

吉原 原価がまだ高いので、比田産の玄米を生かしながら、もう少し改良を加えていければと思っています。

田邊 このプロジェクトをサポートする高校魅力化推進員から、高校生の試作品作りの様子をリアルタイムに写真付きで知らせていただきました。みんなの楽しそうな姿に感激しました。**吉原** そういつていただけ

て、このプロジェクトを引き受けてよかったです。私も比田出身なので、余計に思うのかもしれませんが、比田を盛り上げるための活動に関わることができて、こちらこそ感謝です。



▲試行錯誤しながら、カフェメニューの試作品をつくる情報科学高校の皆さん。



◀一番好評だった「玄米甘酒チーズケーキ」を試食する田中市長（左）。



田中武夫 安来市長

令和2年10月から市長に就任し、現在1期目。就任時から事務事業の見直し（サマーレビュー）を導入し、行政の効率化・スリム化など、行財政改革の取り組みを進めている。

地域を守るといふ強い思いを

戻りたいと思っても戻らざる地域に
須藤 たとえ人の数は少なくても、地元を大切にしたい。思いを持って、住民同士で協力して前に進んでいくことができれば、それは賑やかな地域です。私は比田で生活してきて、比田はそういう地域であると感じています。さまざまな地域で地域活性化のための多様な取り組みが行われている中で、他地域の先進事例はあくまでも一つの事例であって、それを真似したからといって別の地域で成功するとは限りません。ということを感じてきました。

田らしい「場所」にしていければ良いと思います。「元氣な比田であってほしい」。比田の人は人ごとではなく、自分ごととして活動している人がたくさんいます。それを目にするのがとても多くあります。比田には地域を守っていかうとする人がたくさんいます。交流館がリニューアルして、地域の人が集い、つながる場所になったらいいなと思っています。

吉原 中山間地域は自然に囲まれた土地で、都会とは違ってそれぞれの地域によって個性が出る場所だなど思いますが。そのなかでも、これからは比田は過ぎやすく、穏やかだけれど、住民一人ひとりが

組織を超えたつながりに感謝



田邊裕子 えーひだカンパニー株式会社取締役

10年間、東比田交流センターで勤務。比田地区の発展に貢献したいと、同交流センターを退職し、令和4年4月からえーひだカンパニー(株)に入社し活躍している。広瀬町東比田在住。

元気でいきいきとして心豊かになるような場所であってほしいです。比田で育った人が、比田を出ても比田に帰りたいと思えるような場所になつていけたらいいなと思います。私は今春、岡山に進学のため比田を出るのですが、進学先を卒業する時に、地元に戻りたいと思えるような地域になつてほしいです。

田邊 実は私は世間の狭い地域が嫌で、都会に出たいと思つていました。でもいつの間にか、生まれ育ったふるさと比田で家族や地域の人と支えあつていくうちに、伝統や地域を守っていくことの素晴らしさに気がまきました。

地域がもつともつと盛り上がるよう頑張りたいです。まずは地域の皆さん、市民の皆さんに来店していただければ、笑顔になつちゃう楽しいカフェを目指そうと思います。

市長 地域の中で地域を守るという強い思いがないとまちは存続しないと思つています。比田地域は住民主体で地域課題を解決する取り組みを進めています。このような取り組みが他地区にも広がっていくことを願っています。皆さんたちのように、自分たちの地域を大事にしたいという思いや意気込みのあるところに支援するのが行政です。

安心して住み続けられる地域づくりをともに目指していきたいでしょう。